

2025年度 サマープログラム体験記

名古屋大学 3年 松石鴻志

私は、7月8日から14日の日程でサマープログラムに参加し、たくさんのことを学び、かけがえのない経験を得ることができた。本サマープログラムでは、講義やディスカッションだけでなく、病院や研究室の見学、かがやきクリニックの訪問、文化体験など、現地ではしか得られない貴重な経験を得ることができ、また様々な内容が盛り込まれていたため、非常に刺激的で充実した1週間となった。また、プログラムを通して、米国および中国の学生と交友関係を築くことができ、他の国とともに医学を学ぶ友人を得ることができた。

本プログラムで最も印象に残っているのは、かがやきクリニックへの訪問である。プログラムの前に名古屋でかがやきクリニックの訪問診療を見学させていただき、また岐阜ではキャンプ・ロッジといった施設を見学させていただいた。今まで見たことのなかった訪問診療の第一線を見学できたことに加え、自身の病院や医療に対する固定観念が覆されるような、明るく自由な雰囲気をも身をもって体感することができた。また、かがやきクリニックで地域医療に携わる医師の方々からの講義や、他の学生とともに行った地域医療に関するディスカッションを通じて、地域医療に関してより考えを深め、他の国の現状について知ることができた。プログラムの終了後の夕食会では、市橋医師と学生でお寿司を握ったり、BBQをしたりして、とても楽しい時間を過ごすことができ、進化しつづけるかがやきクリニックを再度訪問したいと思った。

岐阜で訪問したカムカムスワローでは、食べるを通じて地域を健やかにするという理念について知ることができ、自身が今まで意識することのなかった食の大切さについて知ることができた。実際に、食品の形や味を保ったまま柔らかくした嚥下食の調理過程を見学し、試食をさせていただき、嚥下障害を抱える方にとって食に関する大きな進歩であると感じたとともに、よりその輪を広げていく必要性があると感じた。自身が医師として働く際、食の重要性を意識することがとても重要であると、カムカムスワローの訪問を通じて学ぶことができた。

岐阜での文化体験は、他の学生との交友関係を深めるうえで非常に素晴らしい時間となった。浴衣を着用して観光したり、船に乗って伝統的な鵜飼を見学したりして、とても楽しい時間を過ごすことができ、また様々な話をすることもできたため、中国や米国の学生とともにかけがえのない時間を過ごすことができた。岐阜での文化体験はとても良い思い出である。

漢方や鍼などの伝統的な医療に関する講義や体験も非常に興味深かった。講義だけでなく、実際に漢方を作って飲んだり、鍼を体験したりすることができたため、とても印象に残り、また現在の医学との共通点や相違点について学生と議論することができ、国や個人によっても価値観が異なることがあり、とても興味深かった。

小児科や老年内科の医師による講義もとても学びとなった。それぞれの現状について知

ることができたとともに、それぞれの国での現状や今後起こりうる状況などについて学ぶことができた。小児科の講義の際に行ったロールプレイでは、患者の家族に対する説明で何を意識するべきかが難しく感じたが、医師による説明がとても合理的で、印象に残っている。

サマープログラム全体を通して、米国、中国からの学生と様々な内容について話すことができ、とても充実した時間を過ごすことができた。名大病院の見学では、それぞれの国との違いについて話すことができたり、かがやきクリニックの訪問では、それぞれの国の医療や医療システムの現状について話すことができたりして、自分にはない視点から生まれた考えに触れることができ、より幅広い視点をもって学ぶことができた。また、医療に関すること以外でも、文化面や日頃の学習、日常生活など、様々な事柄について話すことができ、とても楽しかったとともに、他の国の学生からたくさんの刺激を受け、自身の学生生活のより大きなモチベーションを得ることができた。プログラム中だけでなく、プログラム外でも他の学生とともに楽しい時間を過ごすことができ、貴重な交友関係を築くことができた。今回築くことのできた関係を今後も大事にしていきたいと考えている。

最後に、今回のサマープログラムを実施する上でご尽力いただいた、国際連携室の方々、かがやきクリニックの方々、カムカムスワローの方々、講義をしていただいた医師の方々をはじめとするすべての方々に感謝申しあげる。本プログラムに携わっていただいたすべての方々のおかげで、かけがえのない経験と学びを得ることができた。今後もより一層勉学に励み、この貴重な経験を活かしていきたいと思っている。

